

少しの環境の変化に左右される微妙な植生 キクザキイチゲ群生 (石川県加賀市)

キクザキイチゲは、里山で、三大野の花の一つに思っている程、よく撮影してきた。他の二つはユキワリソウとカタクリである。草丈が小さい割に花が大きい。太陽が照ると、上向きに花を広げ、遠くからでもよく目立つ。花の色も様々で、地元では白花が多いが、淡紫色から濃碧色まで。野山で花の色を確認しながら散策するのは、実に楽しい。

この花の群生はなかなかお目にかかるっていない。何回が出先で偶然大きな群生に出逢った事はあったが、天気が良過ぎて撮影にならなかった。

朝の散歩コースに秘密の場所がある。長年放置され

ている個人の所有地。杉と広葉樹の混生林で、木立の成長等の変化で、毎年下草の様子に変化がある。この年、どういうわけか、キクザキイチゲが大繁殖した。花色は淡紫色で、かなり大輪。実に品のある花色である。見つけたのが早朝で、カメラを持って駆けつけた時には、少し開き過ぎていた。

大雪が降った冬に、近くの広葉樹の大木が倒木した。そのせいで、日当りぐわいが変化した。翌年から、樹下のキクザキイチゲの個体数は減少し、2020年は数株にまでなっていた。自然の摂理は実に微妙である。



キクザキイチゲ群生。濃い青色をしていた。フィルム時代の作品で、この花色は、四色印刷では、再現が難しい。

